

## (6) 北 陸



北陸地域では、景気は回復している。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに増加している。
- ・ 個人消費は持ち直している。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

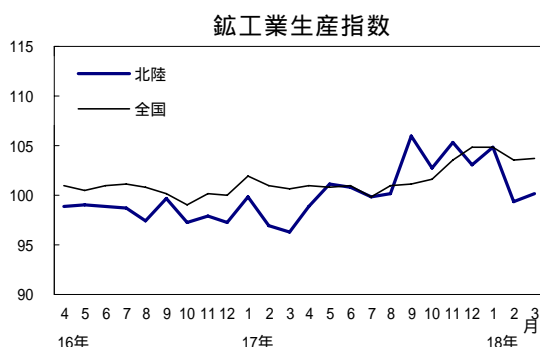
### 前回調査からの主要変更点

	前回（平成 18 年 2 月）	今回（平成 18 年 5 月）	
個人消費	持ち直しの動きがみられる	持ち直している	

### 1. 生産及び企業動向

#### (1) 鉱工業生産は緩やかに増加している。

一般機械は、前期、国内外の半導体メーカーのおう盛な設備投資需要を受け、大きく伸びた半導体製造装置の反動減により、4 四半期ぶりに減少している。電子部品・デバイス、半導体素子・集積回路が薄型テレビ、パソコン向けに好調に推移し、携帯電話向けも好調だったことから増加している。化学は、医薬品が OEM（相手先商標生産）の受注増や後発医薬品の生産増などに伴い堅調に推移したことから、増加している。繊維は、非衣料品が自動車内装材を中心に堅調に推移するものの、衣料品が安価な中国製品等との競合により、振るわなかったことから減少している。金属製品は、建築用金属製品、軽金属板製品が減少したことから、3 四半期連続で減少している。



- (備考) 1. 12年=100、季節調整値。  
2. 平成18年3月の北陸は速報値。

#### 域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

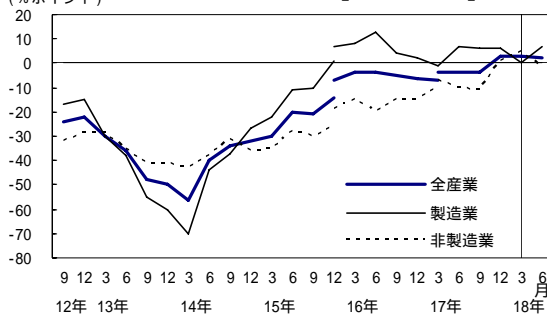
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		10~12 月期	1~3 月期	1~3 月期	1~3 月期
一般機械	14.8	14.1	13.1	-	-
電子部品・デバイス	13.8	4.7	8.3	-	-
化学	12.7	1.0	1.5	-	-
繊維	12.4	0.6	2.3	-	-
金属製品	10.6	1.6	6.9	-	-
鉱工業	100.0	1.7	2.1	-	-

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。  
2. 1~3月期は速報値。  
3. 出荷及び在庫指数は公表されていない。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が横ばいとなっており、資金繰り判断は「楽である」超幅が拡大している。

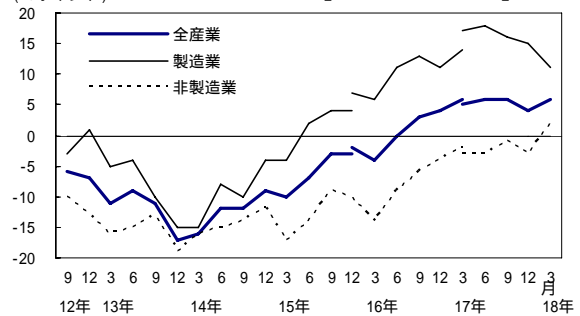
#### 企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



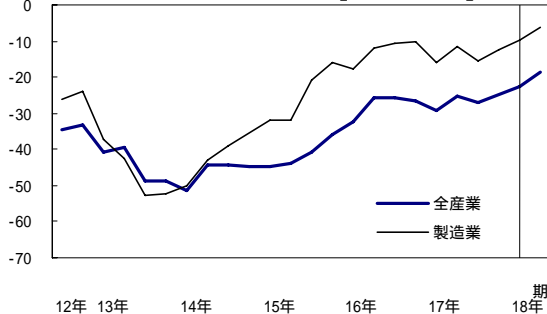
(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。18年6月は予測。  
15年12月および17年3月は新・旧基準を併記。

(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。  
15年12月および17年3月は新・旧基準を併記。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断]



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。18年 期は見通し。  
中部地区。

#### 景気ウォッチャー調査(4月)[企業動向関連(現状)]

「眼鏡産地メーカーの状況は依然二極化が進んでおり、産地全体としては決して上向き感はない。加えて材料関係の値上げについての要請が各サプライヤーから来ており、良く見ても横ばい状態である(精密機械器具製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 17年度の設備投資は前年度を上回る見込みとなっている。

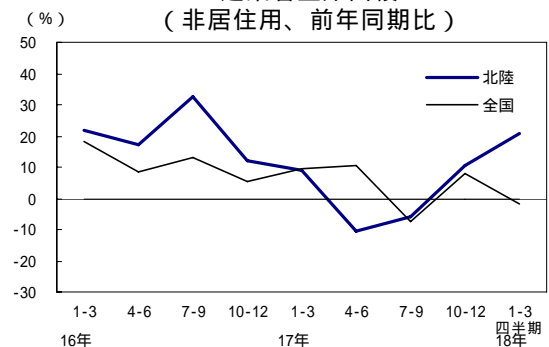
企業短期経済観測調査 [設備投資(3月調査)]

(前年度比、%)

	17年度実績見込み	18年度見込み
全産業	7.9 ( 1.3 )	10.5
製造業	6.2 ( 0.2 )	15.9
非製造業	11.2 ( 3.3 )	0.2

(備考)( )は前回(12月)調査比修正率。

建築着工床面積  
(非居住用、前年同期比)



## 2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直している。

### 大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、1月は、初売りやクリアランスセールが好調だったことに加え、寒波や大雪の影響から重衣料やブーツなどが好調だったことから、前年を上回った。2月は、全般的に天候に恵まれ、春物衣料品が動きをみせたことなどから、前年を上回った。3月は、閉店セール効果などにより、春物衣料品に加え、高額の高額貴金属製品が好調だったことから、前年を上回った。

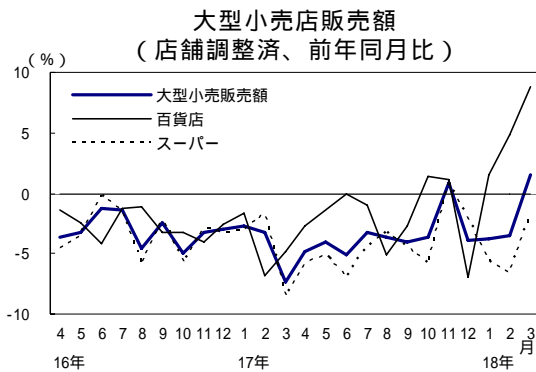
スーパーは、衣料品に加え、主力の飲食料品も前年を下回ったため、全体でみても、期間を通じて前年を下回った。

### 景気ウォッチャー調査(4月)[家計動向関連(現状)]

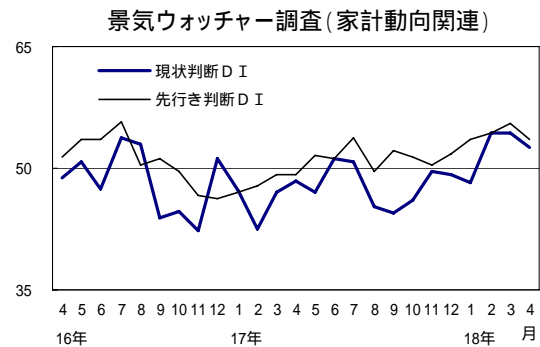
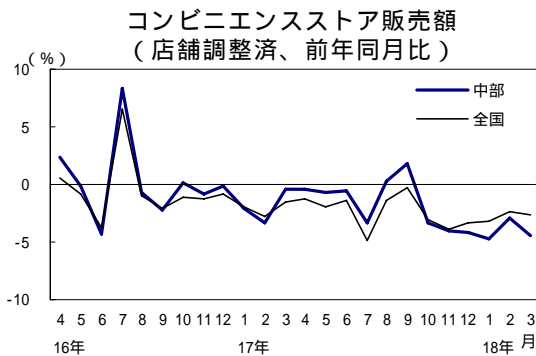
「パソコン、DVDレコーダーの売上は単価の低下により前年を大きく下回っているが、逆に大型カラーテレビ、携帯電話、IHクッキングヒーター等住設機器の売上は単価の上昇により前年を上回っている(家電量販店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(前年同期比、%)

	17年4-6月	7-9月	10-12月	18年1-3月
大型小売店	4.6	3.6	2.4	2.1
百貨店	1.4	2.7	2.2	5.0
スーパー	5.9	4.0	2.4	4.8
コンビニ	0.5	0.5	3.9	4.0
景気ウォッチャー	48.9	46.8	48.3	52.3



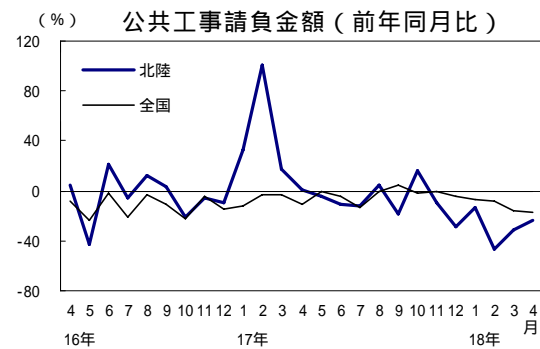
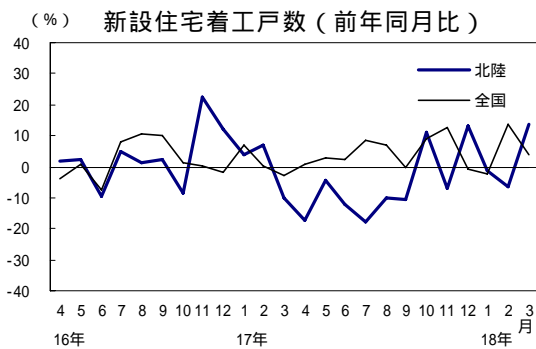
(備考) 1. 大型小売店は店舗調整済。18年1-3月期は速報値。  
コンビニは店舗調整済。中部地区。  
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。



(2) 住宅建設は増加している。

給与が前年を下回ったものの、持家、貸家が上回ったことから、全体では増加している。

(3) 公共投資は17年度累計で見ると前年度を下回っている。

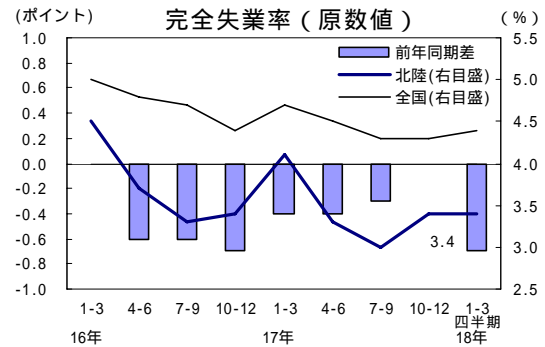
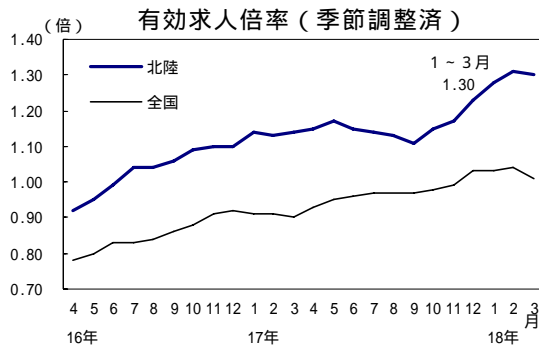


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査（4月）[雇用関連（現状）]

「アルバイト、パート及び正社員募集共に求人件数は増加傾向にある。特に正社員募集に対しては、業界を問わず求人意欲がみられる（求人情報誌製作会社）」など、「やや良くなっている」とする回答が多くみられた。

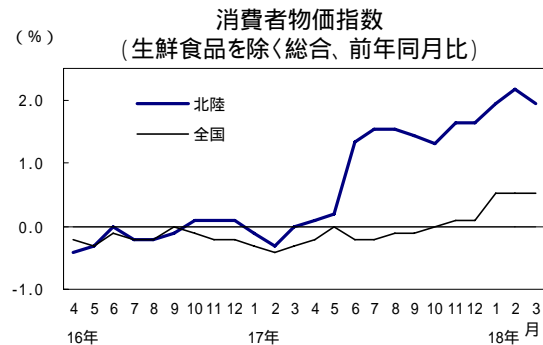
(2) 企業倒産は、負債総額は減少しているものの、件数が増加している。

4月に件数、負債総額ともに大幅に増加している。

(3) 消費者物価指数は上昇している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	17年4-6月	7-9月	10-12月	18年1-3月	18年4月
倒産件数	52	74	77	74	35
(前年比)	44.7	1.3	16.7	4.2	133.3
負債総額	126	164	153	206	69
(前年比)	42.2	61.7	52.3	46.6	111.4



景気ウォッチャー調査（4月）[合計（特徴的な判断理由）]

<現状>

・今年是自己主張の強いオリジナル商品が大きな購買要素になっている。食料品、家庭用品でも「上質、産地、職人の巧み」などをキーワードに動いている（百貨店）

<先行き>

・一部の店舗では採用が難しく、営業時間を短縮せざるを得なくなる可能性がある。また、原油価格の高騰で値上げ傾向にあり、経営的には現状維持で推移する（一般レストラン）

景気ウォッチャー調査（合計）

